

平成 30 年秋期 六浦西地区推進連絡会

1 日時

平成 30 年 11 月 30 日（金） 18:30～20:45

2 場所

大道小学校 体育館

3 参加者

地域側：67 名（学校関係者含む）

支援チーム、その他行政側：21 名（六浦消防出張所長含む）

4 議事

(1) 開会の挨拶

六浦西地区社会福祉協議会 会長 佐波 弘之

(2) 金沢区長挨拶

金沢区長 國原 章弘

(3) 出席者紹介

(4) 意見交換(グループワーク)

テーマ：『地域活動への取り組みの充実』

ア 講座（認知症サポーター養成講座等を含む）のグループ

<工夫してよかったこと>

- ・取組を継続することで参加者が増えたり、活動が定着した。
- ・認知症の理解を数回繰り返し実施し、そこから自分自身の予防へ。
- ・周知を工夫した（回覧や掲示は効果大）。認知症というワード以外の工夫。
- ・本人が元気だった時に趣味にしていた内容を盛り込むなど運営を工夫。

<うまくいかなかったこと・困ったこと>

- ・認知症がマイナスイメージになっている場合がある。
- ・地域の中に認知症の疑いで困っている人は、外に出てこない場合もある。
- ・当時者や家族は周りに言い出せないし、参加もしにくいことがある。
- ・個人情報への壁も地域の見守りを進める上で、課題となる。

<やっていた良かったこと>

- ・認知症サポーターが広がっている。
- ・認知症の理解を深めることで、本人とのギャップを埋められる。
- ・認知症の人への対応方法がわかって、実際に役立てている。
- ・施設から出てしまった方を子どもが声掛けし、施設へ案内したこともある。

<今後、取り組んでみたいこと>

- ・子どもも含め、町のみんながサポーターになる。
- ・講座の中でロコモ体操など認知症予防を取り入れ、つながりを広げる。
- ・地域のつながりを広めたい。特に、学校とつながり子どもたちと関わる。
- ・認知症に関して、コミュニティとしてマイナスイメージを持たない取組が必要。認知症とカミングアウトできる地域づくりができるといい。

イ カフェのグループ

<工夫してよかったこと>

- ・自力で来られない人のために町内会の有志で送迎を行っている。
- ・参加者の興味に応じて、様々な部会を設けている。
- ・発表の場を設ける等、親しみをもってもらおうよう工夫している。
- ・入退出を自由にしたり、椅子を設けたり、美味しいものを作ったりしている。

<うまくいかなかったこと・困ったこと>

- ・参加者が増えず、固定化もしくは減少。特に、男性参加者の誘いが難しい。
- ・参加者が望む取組や内容は様々で企画に悩む。
- ・担い手不足と役割の固定化。担い手と受け手がはっきり分かれている。
- ・実践できる取組が限られている。幅をひろげたい。

<やっていて良かったこと>

- ・参加者の得意分野が判明し、新たな取組を始めて参加者も担い手になった。
- ・参加者が増えると、チラシ作成等が無駄でなかったとわかりやりがいになる。
- ・健康に絡めて広報すると、参加率が高くなることがわかってきた。
- ・参加者が喜んでくると励みになる。
- ・孤立感がなくなる。

<今後、取り組んでみたいこと>

- ・活動団体会の情報共有ができるといい。
- ・参加者にまた来たい！と思われるようボランティアのスキルアップを図る。
- ・グランドゴルフ大会以外にも、エリアをまたいだ地域の交流の場が欲しい。
- ・多世代交流の場をつくりたい。
- ・リーダーの入れ替え、もしくはやりたい人が続けられるような規約の整備。
- ・若い世代の取り込みとして、若者が集まるカフェを空き家で企画する等。

ウ 体操のグループ

<工夫してよかったこと>

- ・場所の工夫、夫婦での参加を促す、町内会の行事に取り入れる等の工夫
- ・会の後に何か相談事がある人は聞く機会を設けている。
- ・男女でアプローチ方法を変える。例：男性はスポーツをきっかけにする等。
- ・体操では「無理は禁物」と声かけすると、続けやすい。

- ・できることも取り入れ、参加者の小さな成功体験を大切にしている。

<うまくいかなかったこと・困ったこと>

- ・男性が少ない。
- ・同じ人がリーダーをやり続ける等、人材不足。
- ・認知症予防にと声をかけると、認知症の単語に抵抗感を示す人もいる。
- ・ゼロから何かを立ち上げるのは難しい。

<やっていた良かったこと>

- ・健康状態が把握できる。
- ・夏休みが終わってもラジオ体操を継続。子どもたちも参加し、多世代交流ができています。
- ・担い手としての役割があることで、やりがいと生活に張りがある。
- ・体操からそれ以外の活動へ広がりがあった。ウォーキングや祭りの世話等。

<今後、取り組んでみたいこと>

- ・町内会の単位にこだわらず、誰でも参加できるように企画したい。
- ・人材を見つけ、育てていきたい。
- ・子どもや孫連れOKとして、一緒に楽しむことができればいい。
- ・開催案内や実施内容等をインターネットで知らせる等工夫したい。
- ・若いうちから自由に参加できる会として、何気なく立ち寄り、一緒に体を動かせるような場所があってもよい。
- ・今ある取組を続けていくことが大切。

(5) 総括

横浜市立大道中学校校長 永山 泰士

(6) 閉会の挨拶

金沢区福祉保健センター担当部長 栗原 敏也